

氏神さまと神棚のまつり

氏神・氏子とは？

「氏神」とは、地域の守り神のことです。本来は、同じ氏姓を持つ一族が共同でまつた祖先神、又は守り神のことでした。この神さまをおまつりしているのが「氏神神社」です。その神社の周辺に居住する人々は「氏子」であり、氏神神社を信奉し神社の様々な祭りや行事に参加する人たちの事をいいます。地方によっては、「産土神」という言葉を使っていることもあり、そうしたところでは、氏子ではなく「産子」と呼んでいます。今日では、氏神も産土神も同じ意味で使われています。皆さんの住んでいる土地の神社を「氏神神社」、一方で個人の信仰でお参りする神社を「崇敬神社」といっています。日本全国には約八万社近くの神社があります。氏神神社を調べたい方や神社の連絡先を知りたい方は、最寄りの神社庁までご連絡下さい。

お神札とは？

お神札は神さまが宿っているみしるし

お神札の種類

神宮大麻

天照大御神さまを御祭神とする「天照皇大神宮」の神号を謹書した伊勢の神宮のお神札です。氏神さまを通じて神職等により各家庭に頒布されることもあり、各神社の授与所でも頒布されています。日本の「総氏神さま」である天照大御神さまの御加護により、日本全国の家庭をお守りいただいております。



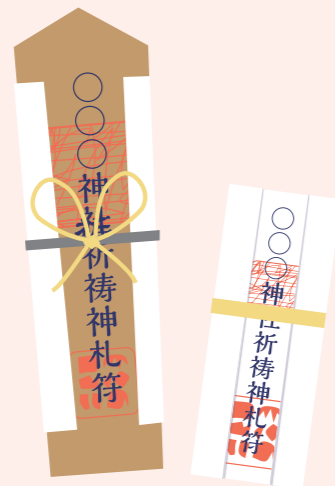
神社のお神札

お住まいの地域の守り神(氏神さま)である神社を「氏神神社」、地域に限らず好きな神社や特に信仰する神社を「崇敬神社」といいます。崇敬神社はいくつあっても大丈夫です。



祈願札

神社で家内安全や厄祓い、初宮詣、七五三詣など、神さまへお願い事をしたときに授与されるお神札です。



かまどの神さま 三宝荒神のお神札

荒神は竈神とも呼ばれ、主に台所を中心とした家の中の火を扱う場所におまつりする神さまのお神札です。



神棚とは？

神棚は家庭におまつりする神さまのお社

神棚の種類

神棚とは、家の中で神さまをおまつりする場所のことです。また、神棚に据えられる、神社の建物をかたどったものを「宮形」といいます。神棚は、三社・一社造りの宮形の中にお神札を納めておまつりするものが伝統的な形式ですが、現代の生活様式に合わせてデザインされた、宮形を用いない「モダン神棚」や少ないスペースでもおまつりできる卓上型の神棚やお神札立てなどもあります。日頃の感謝の気持ちを伝え、神さまに手を合わせる時間を作りませんか？



古くから親しまれてきた宮形の神棚です。



現代のインテリアに馴染むシンプルなデザインの神棚です。

お神札や祈願札を卓上で気軽におまつりできます。